

コレラ、疱瘡、麻疹、流行性感冒、チフス、ジフテリア・・・

江戸・明治・大正時代の人びとは、病気にどう立ち向かったのか

I 疫病流行 頓死同様流行病おびただしき!

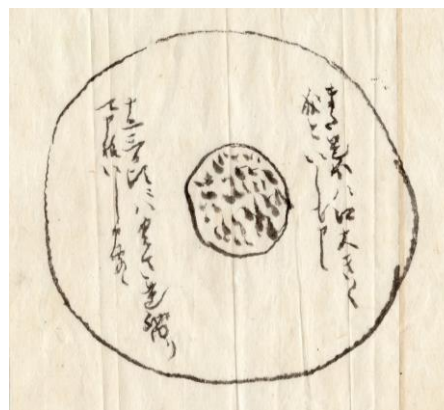
- 1 幕末～明治のコレラ流行
- 2 軽く済ませて! 疱瘡・麻疹
- 3 疫痢・チフス・流行性感冒・・・襲いかかる感染症の恐怖
コレラをはじめ、疱瘡(天然痘)・麻疹(はしか)、赤痢・チフス・ジフテリア・流行性感冒など、かかれば激しい症状で、命も奪う感染症は、人びとにとって恐怖でしかありませんでした。現代のような医学の知識もなく、情報を入手する手段も限られていた当時の人びとの感染症対策の実際をご覧ください。



麻疹手当の事
文久2年(1862)
個人蔵
(本館寄託)

II 病気とたたかう あれやこれ 温泉・漢方・神だのみ

- 1 いろいろな病気
- 2 湯治 温泉の効能と転地療養
- 3 漢方薬あらかると
- 4 最後はやっぱり神だのみ
感染症だけでなく、さまざまな病気が人びとを悩ませてきました。感染症のように急激に悪化し命を奪われるようなことはなくても、長く同じ症状で苦しむ慢性の病気も大変つらいものです。ここでは、病気のいろいろと神仏への祈りも含めた昔ながらの対策を紹介します。



(腫物図)
江戸時代
個人蔵
(本館寄託)

III 近代医療の夜明けと病院建設

- 1 疱瘡よさらば! 種痘の普及
- 2 病院を建てろ! ①隔離病舎の建設 ②地域医療の確立
- 3 村のお医者さんたち

海外から医学の情報がもたらされるようになると、感染症予防や衛生について、人びとの考えも変わっていききました。千葉県では、開明的と言われた柴原和県令の下で積極的な衛生行政が実施され、疱瘡の予防法である種痘も普及し、近代的な医療・衛生の制度が整備されていきます。地域の医療が変わっていく、激動の歴史のワンシーンを覗いてみてください。

IV 養生、そして健康へ 衛生・予防・栄養学の普及

- 1 「衛生」の普及
- 2 予防と予防接種
- 3 たべてよき物 栄養と健康

幕末～明治のコレラ流行の中で人びとに「衛生」の概念が生まれ、生活環境を清潔にすることが伝染病の予防になると理解されるようになりました。さらに、予防薬の開発や食事の栄養についての知識も浸透し、近代以前に比べ、人びとの健康状態は各段に向上しました。現代の私たちも共感できる、少し昔の人びとの健康への願いや努力が伝わります。

関連講座

「近代における千葉県と疫病

—千葉県文書館の企画展から—

講師 豊川 公裕 氏(千葉県文書館)
日時 6月12日(土) 13:30～15:00
会場 根形公民館 2階 視聴覚室
参加費 無料

※新型コロナウイルス感染拡大の状況により、延期・中止となる場合があります。

開催期間中の利用案内

- ★開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- ★休館日 月曜日・祝日の翌日
(ゴールデンウィークは開館し、5月6日(木)休館)

アクセス

- JR 内房線 袖ヶ浦駅から日東バス②乗場 平川行政センター・のぞみ野バスターミナル行「袖ヶ浦公園」下車
※土・日・祝日は東京ドイツ村行、
東関東自動車道館山線 姉崎袖ヶ浦 IC から約20分
アクアライン連絡道 袖ヶ浦 IC から約15分